

朝食会講話シリーズ
vol. 332

「隅を照らす社会奉仕」

～健康の増進と自産自消の野菜作りと新しい仲間作り～



株式会社福田博商店 取締役会長 / 財団法人杉山社会福祉会 理事長

福田 勝



株式会社福田博商店 取締役会長
財団法人杉山社会福祉会 理事長
福田 勝 (ふくだ まさる)氏

略 歴

- 昭和 13年 6月 奈良県に生まれる。
 - 昭和 36年 3月 大阪府立大学卒業、シャープ株式会社入社
 - 昭和 45年 10月 株式会社福田博商店入社
 - 昭和 48年 3月 株式会社福田博商店 代表取締役に就任
 - 平成 19年 9月 株式会社福田博商店 取締役会長に就任
現在に至る
- <現在の主な役職>
- 昭和 5年 4月 財団法人杉山社会福祉会の事業に参加
 - 昭和 59年 10月 財団法人杉山社会福祉会理事に就任
 - 平成 15年 7月 財団法人杉山社会福祉会理事長に就任
現在に至る

はじめに

皆さん、おはようございます。

親友・池辺さんの策略にはまっています、本日お話をさせていただくことになりました。
経歴等については司会者からご紹介いただきましたので割愛させていただきます。

朝の食事のときに、沢庵が出てました。

私、去年から沢庵を漬けるのが趣味になりました、昨年には60本漬けました。
友達にその話をすると、「アホ言え、俺は200本漬けたんじゃ」というこういう友人もおります。

野菜づくり 病こうじて「似非百姓」なんていう川柳をつくられた方も、この菜園大学の生徒でおられますが、沢庵だけではなく、今トマトはブームになっていますがトマトジュースとか、或いは、誰かが紫蘇をつくりますと、ほっといたら種がいっぱい飛んであちこちに紫蘇が出来ます。

この紫蘇をジュースにすると美味しいのです。

夏、ゴルフされる方は、是非この紫蘇ジュースをお作りになられたらいいんじゃないかなと思っています。

野菜づくりといえますのは、最近是非常に盛んでございまして、私も当初から携わっておりますが、もう3年になります。

「何がいいのかな」と、皆さんのお手元にお配りしております資料の中に、これは一昨年の募集のときに朝日新聞の記者が「一度訪ねたい」という事で、取材に来られました。

時々、新聞社等から取材に来て載せてくれます。

その他の年は「告知板」に、記事広告で募集させていただいておりますが、大体朝日新聞の阪神地区と神戸新聞で、100人位応募いただいております。

定員は50人ですから、競争率は約2倍となります。おもしろいシステムとして、半舷上陸をテーマとしまして、半分だけは経験者を採用し、もう半分はまったくの新人という事で、先輩が後輩を指導するというようにしています。

菜園大学・マイ田んぼ

「マイ田んぼ」と言いまして、菜園大学は大体5月から12月でございます。自分らはこの大学での指導、それから農作業とは別に百姓屋さんと契約して、一畝、二畝、三畝借りて作っております。

現在、私もそうなんですが、そういう方が田んぼにはイチゴ・玉ねぎ、それからえんどう豆、これが今育ってきています。そのような状態が、今の農閑期の状況です。

「マイ野菜」という話をさせていただいたんですが、今朝も大和ハウスさんが、車の駐車場くらいのス

ペースがあれば出来る」という所謂電照で水耕栽培での野菜づくりの設備を発表されていました。尼崎では日亜工業さんが工場で生産されておられます。

確かに虫もつかなく、非常に新鮮で安心な野菜が収穫できます。最近では「道の駅」というのがたくさん出来まして、地産地消という事で、「その地域で出来たものはその地域で消費しましょう」という活動が活発にされております。

これは政府もそういう事を薦めておられますが、私は、今やっていることは、敢えてこれを「自産自消」と呼んでおります。

年配の方には自給自足の方がピンとくると思いますが、あまり嬉しくない言葉ではあります。食べるものがないから少し庭先で野菜を作るということをイメージされます。

戦争中、学校の校庭まで芋畑になったっていうような事を経験したからです。この野菜づくりはいい何処がいいのかな」とフツと私が思い起こしたのは、学生時代、これが化学の先生だったか物理の先生だったか忘れましたが、「ファラデーの涙」のお話をさせていただきました。

皆様の中にもご存知の方もたくさんいらっしゃると思いますが、ファラデーっていうのはイギリスの科学者ですが、試験管に液体が入ったものを持ってきて、「これは誰々君のお母さんが流した涙です。これは一体何が入っていますか」と、こういう質問をしたっていうんです。

最近つくづくその事を思うんですが、皆さん、どう思われますか。涙は一体何か。涙の中には何が入っているのかっていうのがポイントなのです。

大概是水と少々の汗、塩化ナトリウムかなと、こういう事ですが、誰もそれ以上のはっきりとした答えがでてこないものですが、化学の先生が言うのですから、そういう答が出てきたのでしょ

先生曰く、「これは誰々君のお母さんの愛が入っているんだ」と言うわけです。自分の子供のことを心配して、先生に相談して流した涙で、子供に対する愛が入っている。

これによく似た話があります。

今頃になると「雪が溶けたら何になる」と小学校の先生が言われたそうです。

大概是「氷になる」と言うわけです。しかし一人の生徒が「いや、そうじゃない、先生、春になります」と言ったそうです。そういう話を思い出しました。

野菜づくりをしていますと、野菜の心はなかなかつかめませんが、努力して丹精込めれば必ずそれに応えてくれる。自分で作った野菜には、そんな思いが入っているのです。付加価値が高いということですよ。

このように野菜づくりを自分でやっていると、つくづく感じます。

このような思いは先ほど「似非百姓」と言いましたが、日曜百姓というのは、大げさに言いますと、これからの近郷農家を救う道になるのではないかなというような事すら最近思います。

それは、もよひとつ痛切に感じていることがあって、菜園の方で、私、大変喜ばれておるんですけども、世の奥様方から、理事長さん、お陰で、私、みんなの友達と今までどおり仲良くいろんな事が出来て嬉しいんです」って言うんです。

はじめは何のことかなと思ったら、この財団の野菜づくりは、60歳以上・健康な方ということを条件にしているわけです。

ここに行き着いた経緯についてはまたお話しさせていただきますが、定年で主人が家に居るようになって、私に引っ付いて困るんです。所謂濡れ落ち葉っていうやつです。

こういう事に困っている奥さん方、沢山いらっしゃるらしいです。

現にこの菜園大学、5月の第一週に入学式をするんですけども、奥さんが付いて来ないとこの畑まで行けないという旦那さんがいらっしゃいます。

ここにいらっしゃる方は、自営かそれに相当する方が多いと思うので、そんな方はいないと思いますが、大企業でサラリー



マンをずっとされて、定年になると切符の買い方を知らないとか、何処かに行くのに何処の駅で降りたら行けるかとか、これがさっぱり分からない。

40代、50代になって、部長さん・重役さんになると全部秘書がやってくれるものですから、その術が分からないのです。

私の友人も奥さんがおっしゃっておりました。最近一生懸命、主人のそういう面の教育をしているんです」と。まず新幹線の切符の買い方、地下鉄の切符の買い方、或いは先ほど言いましたように、何処の駅で降りてどうして行ったらいいのかというような事を、やっぱり主人に言わないかん、訓練しているのです」と言われておられます。

大概そういう方は早く偉くなられたから、自動車の運転は奥さんがされているようです。

今までは会社に車がありましたので、「おい、何処へ行くぞ」、或いは「何処へ行ってください」と秘書が担当します。

この間ある事でご一緒させていただいた当尼崎地域産業活性化機構の理事長の宮崎さんが、BMWに乗っておられて、いつ運転を覚えられたのかなあ、さすが宮崎さんだと思いました。

僕らの年代では、大概「免許はないんや」という方が多いです。

こういう方も新聞広告見て「行きたい」という方もおられますけれども、大半は奥さんがご主人の名前で応募してこられます。

おもしろい方がいらっしゃいました。全然奥さんが来られない。旦那だけが来るんですよ。

たまに歓迎会であるとか、入学式の時とか、そういうイベントがあるときには奥さんも一緒に来られますが、そういう時は100人位の会になります。

いま、回覧でお配りしている資料、これは全て生徒が自主的に交代で作ってくれているホームページです。それを見ていただいたら一目瞭然で、雰囲気は分かると思います。その奥さんが最近お見えになったんです。で、「どうしたんですか」とお訪ねすると、「いや、もう足、膝が痛くなって、山登りが出来なくなり、畑について来るようになりました」と、こういうわけでした。

それまで、元気な間はご主人と一緒に行動していないのです。でも、やっぱりそうだと主人がいつも持って帰ってくる野菜が美味しいとか、そういう事もあり、畑の方に足が向くようになっていくという事です。

最近一番感じていることは、「定年退職後することがない。何をしたらええんや」と。趣味や何かと言っても毎日そういう事があるわけでもないし、冗談で言っているんですが、菜園大学は「濡れ落ち葉託老所」だなどと話をしています。

歳を取ったら段々子どもに戻るっていうから、託児所がいいかもね、何ていう話はしておりますけれども、そういう居場所づくりをしていることになるのかなと思います。

定年退職後の方々に、元気な方の居場所になっているのですね。

これまでの経緯

そもそも私の本業は鉄屋でございます。実は私自身、好き好んでこの世界に入ったわけではありません。

神戸製鋼の鉄の材料を、特に鋳物用の銑鉄を商いしておりますが、色々な関わりがありまして、昭和5年から杉山社会福祉会に携わっております。その経緯はこのパンフレットに書いておりますが、杉山社会福祉会は戦後16年経った頃、昭和36年に杉山さんっていう方が、当時、老人福祉の事業をしたいということで、私財を投入され設立された財団なんです。

昭和36年というと、ちょうど高度成長に入っていく、確か給料倍増論というような事が言われた頃だったと記憶しています。

杉山さんは、その後昭和40年頃に安保闘争とか大変な学生運動が盛んな時期に、「このままでは日本が危ない」というようなことから、きちんとした大学をつくらないといけないという事で、仲間と京都産業大学の創始者のひとりになりました。

その創始者の一人に荒木さんと言われる方がおられまして、先日その荒木さんの息子さんから電話

があり 実はいま大学の年誌を作っているんだけど、杉山さんの生年月日を教えてくれないか」との連絡がありました。「どうしてですか」とお訪ねすると、年誌を作成しているとのことで、偉い人ばかりの名前が並んでいるので、どう並べたらいいのかわかりにくく悩んでおり、生年月日で並べることになったので、生年月日を教えてほしいということでした。

後日、分厚い京都産業大学の年誌を送っていただき、新たな人との繋がりができ、そんなご縁も出来ました。

それで、当初、杉山さんは、戦前はクボタの農機具の総代理店をやっておられたそうです。

しかし、戦争ですべてなくして戦後「杉山機械」を興されて、その後を考えて、財団法人を設立すると考えたそうです。しかも、老人福祉の事業をやるんだと決められました。

当時で老人福祉という発想は、よく思いついたものだと感心させられます。

杉山さんが亡くなった後、奥さんが少しの間理事長をされていましたが、休眠状態となっております。

これを勿体ないということで、当時の理事のひとりであったクボタの技師長をされ、その後大阪工業奨励館の館長をされた川端さんが財団の事業を復活させようという事で奔走されました。

昭和5年位の話ですから、冬になるとアンカが必要であるとか、夏になると今で言う加齢臭が出るからオーデオロンが必要であるとか、毛布であるとか、そういうものを配って歩いたんです。

当初は事務所が京都にありましたから、丹後の宮津、福知山、宇治田原などを回られており、その時「福田君、手伝ってくれ」とお声掛け頂き、それがそもそもの発端です。

今でこそ介護という問題でいろいろテレビとか政界を揺るがしたりしていますが、介護をするのに自転車であの京都のいろんな山坂をいくのは大変だろうという事で、当時ダイハツが販売していた三輪のスクーターを数十台買って、それを配って歩いたんです。

すると、市役所から「それはもう結構や」と言われました。

市役所からすると「小さな親切、大きなお世話」という事だったのです。「そんなに貰ったら、市としてガソリン代を予算計上をせないかん」と。ただで貰うのはいいけれども、自転車ならガソリンは要らないと。スクーターやったらガソリンを買わないかん。という事はガソリンを予算に計上せないかんということでした。

それでこの川端さんが頭にきて、「もうやめた」とって随分ぼやくんです。

赤十字とか、いろんな福祉団体があるんですが、大部分は市の民政部の扱いになっていると思いますが、杉山社会福祉会は国なり県なり市の予算を貰っていませんから、知事直轄の財団です。たいていの福祉団体は補助金などを貰いながら、半分は事務費として、人件費で使っており、本当の福祉はそうじゃないやろう」という事を言われてました。

それで、今でもそうですが、結局全部ボランティアでやっています。もちろん理事も理事長も無給、むしろ理事長をやっていると、こういう資料なんかを作ったりすると全部持ち出しです。



だけど、それでいいと思います。逆に言うと、60歳以上の方に限定したのは、まず畑に来れるという事を前提にしています。これは介護よりも介護されないようにしようという取組です。そこで「予防福祉」という概念が出てきたわけなんです。

健康な状態で最後の最後まで逝く。最後はどうなるか、それは分かりませんが、とにかく病気になるように大地の上に立ち、土を相手に太陽を浴びて、安心・安全な野菜を作って自分で食べよう。自産自消と言いま

したが、自産自消の方がいいのかもしれませんが。

そういう概念を打ち立てられたと言えれば少し大げさになりますが、やむを得ずそういう風に進み、介護の必要がないようにというのが、この財団の菜園大学開講の目的となりました。

最近の活動

でも最近はおもしろいです。ある年度の生徒で来られた方が、自分のブログにこの菜園大学のことを書かれており「えっ」と思ったんです。

震災まではこの財団として、当時の事ですから、いくら元気な方とはいえ、宝塚であるとか垂水、神戸などから来られるわけですから、大概はJRの三田駅、それから神戸電鉄の道上南口が最寄りです。不便なため、送迎バスを買いました。

28人乗りなら大きな免許も要りませんので、駅まで送迎をしたのです。

事実その頃はそうないと「どうして行ったらいいのかわからないような方もいらっしゃるわけですね。」

困ったことに土曜日に運転手を雇ったらお金が要ります。それこそ「隅を照らす」と書いてありますけれども、小さな財団ですから、全部私の会社のトラックの運転手に交代で、土曜日は時間外手当を支給するので、休日出勤してくれとお願いしていました。しかし、震災があって世の中がガラッと変わりました。また生徒も沢山増えましたので「もう現地集合にしよう」という事で、現地集合に切り替えたのです。

それで、先ほど言いましたブログに書いていましたけど、まあ、大変な学校があるものやという事で、ものすごくお褒めいただいているのです。

みんな車で来られます。中にはBMW、ベンツで来る人が結構おられるわけですね。

トランクを開けると、中から長靴とバケツと水をやる柄杓ですね。それにスコップが出てくるそのアンバランスの面白さがあります。」と…。

大きな鍬とかは全部置いておくようにしてありますけれども、このような事を書いていまして、だから今は一番贅沢な野菜をみなさん食べていらっしゃるんじゃないかなと思います。

30年もたつと世の中がらっと変わるものですね。

300坪ほどを50人で割りますから、一人6坪で、畳にしたら12畳です。それだけあったら、その期間の野菜をほとんど自給できます。野菜買わなくていいから、助かるわ」と家内がいつも言います。

私はこれがいいと思うのです。すべて路地でやりますから、その季節季節のものしかないんです。

だから、季節外れの、例えばいまマト食べたいと思ってもないんです。そんな時は去年つくったサツマイモとかジャガイモとか玉ねぎとか、そういうようなものが主体になります。

この様な活動をして、予防福祉への道へ転換したわけです。それからもう3年になります。

過去の写真で見ると、私もまだまだ髪の毛も黒いしもう少しあり、好顔の美青年で、よくオバあちゃんにもてたんですけど、この頃は私が一番年寄りという状況です。

今度74になります。60歳以上ですから、平均年齢が70位で、こういう事をやっていると、先ほど「居場所ができた」と言いましたけれども、正に私は畑でいろんなものを作って、いろんな人との交流を楽しんでおります。ただひとつこの菜園大学に最も大切にしている条件があります。それは「前職、前歴不問」です。

ですから皆さん平等で、大概気の合いそうな人は「皆は何をしてたんや」というような話もされておられますが、それはそれでいいとして、公には不問という事にしています。

今後の課題と展望

先ほど冒頭に言いましたが、最近には特に近郷農家の救い手に、この60歳以上の人達になるのではないかと思います。

65歳以上の年齢層の方が、あと少ししたら我が国の人口の40パーセントを占めるというような事になるようです。

今、定年延長を義務付けていますから、65歳まで働くという事が多くなるかもしれませんが、では、その後どうするのかということです。

いま一反分借りて、指導料を含めて農園の方に70万円程度お支払させていただいております。

最近はいまアライグマ、イノシシが沢山出ますので、対策費も含めお願いしています。

皆さん、いま一反分の米を作ると一体いくら収入があると思われますか。

昔、肥料も何もない時代は、一反で1年に一石。これはひとりが1年に食べる米の量と言われ、一坪が、1日3合として割り当てられたそうです。

当初は面積ではなく、食べる量で計ったそうです。

いま一反に三石出来たとして45キロ。1キロを買われるのは大体500円位でしょうか。

5キロ入りで2500円、2000円位のものもあれば5000円位のものもあるでしょう。平均して農協が買い上げるとしたら、玄米ですからキロ200円か250円です。

それを450坪口すると、1万円くらいです。500円としても20万円程です。

平均15万円あったとしても、一反で15万円。10反すなわち1ヘクタールで110万円か150万円しかないです。これでどうやって百姓は生活していくのかということになります。

いま我国農家の平均耕作面積は2.2ヘクタールで、大体100万円位の個別保証というものがあるようでして、平均して400万円位が年収のようです。

今は専業は30万戸か40万戸しかなく、兼業が多いようです。

兼業も地域の組合に勤めたり、工場進出した会社に勤めたりしています。

だから農業以外の収入が結構大きく、一部の方たちは、米が何ぼになろうが、そんなものはええんじゃ」というような方も近郷農家にはたくさんいるとお聞きします。

だから、しんどかったら作らずに、ほったらかししている訳なのです。

先ほど日本の農業の再生に一役買うのではないかと言ったのは、この尼崎の商店街にも、シャッター通りなどいろいろ問題があります。

この近郷農家では、シャッター田んぼとは言いませんけれども、所謂「耕作放棄地」、これがものすごく出てます。

農業より先勤めに行っている方がいいと言われるのです。

今、三反や五反あれば自分の食べる分だけは作り、後は人に任せて、まとめて田植え、稲刈りをしてもらって、田んぼの賃料をもらっていることです。

本日、ロータリークラブのメンバーが何人か来てくれておりますが、黒米をロータリークラブとして毎年栽培しています。していますと言うよりも、していただいているんです。

「田植えてどうするの、稲刈りってどうするの」というような事も、勉強になるかなという事で、特に子ども達、私達にすれば孫ですが、一緒にイベントに参加するというような事業をロータリークラブでしています。

それでロータリークラブのメンバーは、その役割を担った方はお解りかと思いますが、約一反分黒米を植えているのです。

それに水とかも管理費で4~5万、それから、田植えから稲刈り・脱穀までやって、大体10万円位で合計で15万円位払うんです。

先にお話ししたとおり、農協に出しても一反で11~12万。それから精米して小売しても20万円位が、今の農家の米の収入です。

だから農家で一番成り立っているのは何かというと、ハウスを建ててトマトを栽培したり、野菜栽培したりしている施設農業の方です。この方らは、それなりに収入もあります。

でも、三反や五反でそういう事も出来ないし、そういう事をしようと思えば専念しないといけませんから、将来非常に問題で、どう変わっていくのかと考えております。

昨年の作業 行事予定をお配りしておりますが、5月から12月までは、私も似非百姓をやっています。
今年はまだ少し大根を作ってみようと思っています。

昨年は60本漬けましたが、その半分も食べないです。みんなご近所にお分けしております。そうすると、その沢庵が時々魚になって帰ってきます。これは隣近所とのコミュニケーションのツールのひとつにもなっているのかなと思います。

最後になりますが、今日も家内は朝早くから行きましたけれども、この菜園大学で「マト・あんど・ピーマン」という楽団のコミュニティが出来ました。最近はこちらこちらに呼ばれ演奏させていただいております。はじめはドラム缶とかダンボールの箱を持ってきたり、仏さんの鐘持ってきたりして、「何かおもしろい事をやろうよ」というような事から始まりましたが、今や立派なサックスはあるし、ドラムはあるし、去年の八月か九月か、西宮の市民祭りのときは、阪神のエピスタから、是非きてくれという事で、みんな張り切って演奏会をやったりしています。

学生時代に少しかじっていたというような、大体そういう人たちが中心になってやられているんですけども、まったく素人だった人もおります。

もうすぐ介護を受けないといけない様な自分たちが、元気に色々な福祉の施設に慰問に行けている、私はこの菜園大学の存在価値がそんなところにあるのかなと思っています。

また機会がありましたら、皆様のお力添えをいただければ有難いと思います。

最後にもうひとつ、今晚、8時からNHKで「地球一番・世界一幸せなブータン ストレス、それ何」とい放送があります。私の先輩が28年間、ブータンに野菜づくりの指導をしたんです。最近では友人がブータンからいいマツタケも輸入しております。お時間があれば見てみていただければと思います。

どうも有難うございました。

豊かな地域づくりのお手伝い。
〈あましん〉

地域の**文化・教育・環境**など、
元気な地域づくりに貢献します。

尼崎21世紀の森づくりを支援します。

※あましんは兵庫県と協定し「企業の苗木の里親第1号」としてスタートしました。

 **尼崎信用金庫**
AMASHIN
<http://www.amashin.co.jp>


20000722(03)
JISQ15001:2006準拠